

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	7 校の校舎を再建し、計 915 名の子どもに安全な学習環境を提供できた。同時に、教師 20 名への研修、SMC¹56 名をはじめとする地域住民や学校関係者の啓発、生徒会 56 名の組織強化を行い、その能力と意識の改善を実現することで、包括的に子どもの教育環境整備に貢献した。またニュースレターの発行により、教育関係者や地域住民間の意識向上及び経験共有を促進できたことは、併せて子どもたちを取り巻く地域のエンパワメントにもつながった。総じてソフト・ハードの両面でムザファラバード郡の教育環境の整備、及び学校教育の強化に大きく裨益する事業を実施できたといえる。
(2) 事業内容	<u>(ア) 学校校舎の再建及び教育設備の充実</u> ムザファラバード郡の 6 村において、小学校 6 校及び高等学校 1 校（各校 2-3 教室）を再建し、子どもたちの安全な学習環境を整備した。校舎は耐久年数約 60 年²程度で優れた耐震性を実現している。再建校は以下の計 7 校。 女子校 6 校³ (GGPS⁴ Gohri Sydan, GGPS Malsi Payeen, GGPS Abial, GGPS Norbani, GGPS Mahajir, GGHS Mahajir) 男子校 1 校 (GPS Balak Bana) 対象地を含むムザファラバード郡の山岳地帯は天候の影響を受けて洪水や地すべり、土地の侵食等が発生し易いことから、架溝や校舎擁壁の仕様を各建設地の状態に合わせ、コンクリートを増量するなどして強度の高い構造にした。 校門、標識、トイレ、水タンク、浄化槽、擁壁を整備した他、教育局の基準に則った規格の家具を各学校に支給した。7 校に支給した家具は次の通り。生徒用 3 人掛けの椅子と机（小学生）計 182 セット、生徒用 3 人掛けの椅子と机（中・高生）計 42 セット、教師用椅子と机計 16 セット、職員室用椅子計 6 脚、校長用椅子と机計 1 セット、資料棚計 7 台、掲示板計 7 枚。 家具を含む学校施設は、順次建設完了した時点でムザファラバード郡教育局に管理が移譲され、その後政府の責任において継続運営されるよう、郡政府と書面にて移譲の確認を行った。また、学校設備が適切に管理されていくよう維持管理の仕方などを示した 18 種類の啓発ポスターを作成し、各学校に掲示した。（ポスター内容詳細：添付 1 参照） 各対象地域では事業開始直後に、村の議員やソーシャルワーカーを含む運営監理委員会を発足して事業及び事業終了後の施設維持への協力を促した。 <u>(イ) 教師及び保護者へ教育環境改善を目指した研修実施と生徒会の組織化</u> 再建した 7 校において、より質の高い教育と環境を提供できるよう、支援対象校の教師、SMC 及び生徒会に対し以下の通り研修を実施した。 【教師研修】計 3 日間 1 回目全校教師対象：2 日⁵（2014 年 8 月 23 日、24 日） 2 回目各学校教師対象：1 日（2014 年 12 月 4 日、6 日、8 日、9 日、10 日） 参加者数 計 20 名（男性 2 名、女性 18 名） 【SMC 研修】計 3 日間 1 回目全校 SMC 対象：2 日（2014 年 8 月 12 日、13 日）

¹ School Management Committee の略。日本の PTA に相当する。

² 修繕を加えることで半恒久的に使用することが可能である。

³ 政府への登録上、名称が女子校、男子校と区分されているが、学校数不足のため、Mahajir 以外の 4 校は男女共学校として運営。

⁴ GGPS=Government Girls Primary School（公立女子小学校）、GPS=Government Primary School（公立男子小学校）、GGHS=Government High School（公立女子高校）

⁵ 遠方から参加する教師が多いことから、一日の時間を拡大して 2 日間に短縮し、同内容の研修を実施した。

	2 回目各学校 SMC 対象：1 日（2014 年 12 月 15 日、16 日、17 日） 参加者数 計 56 名（男性 8 名、女性 48 名） 【生徒会研修】計 2 日間 1 回目各学校生徒会対象：1 日（2014 年 8 月 19 日、20 日） 2 回目各学校生徒会対象：（2014 年 12 月 20 日、23、24 日） 参加者数 計 56 名（男性 8 名、女性 48 名） 教師研修は、双方向の指導法や生徒が主体的に参加できる学習形式を学べるよう組み立てた。また SMC 研修では、子どもの権利や保護者の学校教育における重要な役割について取り上げた。さらに、生徒会が中心となり生徒らが主体的に学校活動に参加していけるよう同会の組織強化を狙い、各校の全生徒会員を対象に、校舎再建の前後に各 1 回実施した。研修では、講義だけでなくグループワークやディスカッションを取り入れた参加型となるよう工夫した。（研修内容詳細：添付 2 参照） （ウ） <u>ニュースレターによる地域の経験共有</u> 対象地域の学校が抱える教育に関するニーズや課題への取り組みの紹介、研修参加後の保護者や学校関係者の声及び成功事例を掲載したニュースレター「Naya Din」を計 2 回、計 160 部発行した。ニュースレターは、各学校、SMC、州及び郡レベルの教育局、地震救援復興局（SERRA、ERRA）に配布した。（ニュースレター詳細：添付 3 参照）																								
（3）達成された成果	（ア） <u>教育環境の再整備と基礎教育へのアクセスの改善</u> 7 校の校舎を再建し、青空教室や、破損したテントでの就学を余儀なくされていた 5～14 歳の生徒 915 名（男子 160 名、女子 755 名）の安全な学習環境へのアクセスが確保された。擁壁やトイレなどの施設が整備されたことにより、女子生徒が安心して通学できるようになった。新校舎の完成は、子どもたちの学習への意欲を高め、欠席しがちであった生徒の出席率の改善、及び中退した子どもの復学につながった。 各村では、運営監理委員会の働きかけにより、住民が建設中の子どもたちの学習スペースを提供したり、整地作業を手伝うなどの協力も得られた。 AJK 教育局、ムザファラバード郡復興局など政府関係者が事業地を視察し、当局との密な連携や協議の実施が可能となったことから、再建後の校舎の維持管理、及び学校教育の質の向上への理解が深まった。さらに、本再建事業の必要性や有効性が広く知られるようになり、アラブ首長国連邦赤新月社が計 9 校の再建に乗り出すなど国際援助諸機関の動向に良い波及効果をもたらしている。 指標の達成度合いとしては、次の通り。 ・ 生徒の登録者数が全体で 91%増加した。（表 1 参照） ・ 教育局との共同追跡調査では生徒の出席率が男子 93%、女子 95%に改善された。 ・ 対象学区の女子の 95%が就学機会を得た。 表 1 再建前と再建後の生徒数（2015 年 4 月⁶時点） <table><tr><th></th><th>再建前</th><th>再建後</th><th>増加数</th></tr><tr><td>GPS Balak Bana</td><td>60</td><td>90</td><td>30</td></tr><tr><td>GGPS Abial</td><td>80</td><td>151</td><td>71</td></tr><tr><td>GGPS Malsi Payeen</td><td>59</td><td>121</td><td>62</td></tr><tr><td>GGPS Gohri Sydan</td><td>32</td><td>105</td><td>73</td></tr><tr><td>GGPS Norbani</td><td>57</td><td>98</td><td>41</td></tr></table>		再建前	再建後	増加数	GPS Balak Bana	60	90	30	GGPS Abial	80	151	71	GGPS Malsi Payeen	59	121	62	GGPS Gohri Sydan	32	105	73	GGPS Norbani	57	98	41
	再建前	再建後	増加数																						
GPS Balak Bana	60	90	30																						
GGPS Abial	80	151	71																						
GGPS Malsi Payeen	59	121	62																						
GGPS Gohri Sydan	32	105	73																						
GGPS Norbani	57	98	41																						

⁶ AJK 州の新年度の生徒登録は 2015 年 4 月 30 日まで継続されることもあり、今後も生徒数が増える見込みである。

GGPS Mahajir	110	220	110
GGHS Mahajir	80	130	50
合計	478	915	437

(イ) 教師の能力向上と地域や生徒の参画による学校活動の質向上

近代的な教授法、学校活動における役割や責任などをテーマとした研修の受講を通して、教師、SMC、生徒会の意識や技術が向上し、各アクターが学校教育の質を改善していくよう主体的に関わり始めた。

生徒との相互交流に重きを置いた授業運営方法を学んだ教師らは、モチベーションが向上すると共に、詳細なLESSンプランを自発的に作成したり、演習を多く組み込むようになるなどの改善が見られた。参加した教師の 90%が研修内容に満足したとの回答を得ている。SMC 研修では、保護者が自らの役割とその重要性を認識し、学校活動に積極的に関わるようになった。具体的には、地すべりの後再建校舎付近に散乱した障害物を取り除く、村人が多く集まる礼拝の場で再建事業について積極的に説明をするなどの事例があった。研修後、生徒会の機能について学んだ生徒会員は、学校活動における課題の特定や解決法に関する議論を活発に行い、美化週間の実施や近隣の子どもへの通学を促す働きかけなど具体的なアクションをとるようになった。

指標の達成度合いとしては、次の通り。

- ・ 教師の出席率が 97%に改善された。
- ・ 教師の 80%が、近代的な教授法を実践できるようになった。
- ・ 保護者 (SMC) の 75%が学校活動に参加するようになった。

(今後、継続して SMC によるポジティブな介入事例をモニタリングしていく。)

- ・ 生徒会の 97%が生徒会の役割を理解し、学校活動に参加するようになった。

(ウ) 地域社会における意識の向上と活性化

学校活動に SMC が参加した優良事例等がニュースレターで掲載され、他村の教育関係者も模範にするなど良い刺激となっている。教育現場の情報共有の機会提供は教育局の本事業への好評価にもつながった。併せて再建された学校を中心として徐々に地域も活性化し、校舎で地域集会や国際女性デーなどの行事を開催する地域もでてきた。

なお、(ア) ～ (ウ) の活動を通じた直接裨益者数は 5 歳～14 歳の生徒 915 名 (男子 160 名、女子 755 名)、再建校の教師 (20 名)、SMC (56 名) 及び生徒会 (56 名)、間接裨益者は約 33,788 名である。

(4) 持続発展性

再建した学校はすべて公立校であり、校舎建設完了時に家具を含む学校施設の管理が郡教育局に正式に移譲されている。教師の給与や維持費等その他運営費は政府予算が既に振り分けられており、ソフト面を含め継続的な運営が確実に担保されている。同時に、各地域に発足した住民参画の運営監理委員会からは、再建後も学校施設の維持や学校への登録キャンペーンに協力するなどの合意を取り付けている。

研修への参加で教師、SMC、生徒の意識が向上したことにより、学校活動の質の向上に向けた下地が各校に作られた。特に SMC を成す保護者や地域の有力者らは教育の重要性と自らが果たせる役割を強く認識した。今後も教育局との共同で事業効果のモニタリングを継続し、子どもの教育環境の改善に貢献していくアクターを増やしていく。

さらに次期では、政府、学校及び地域が意見交換をしたり、ネットワークを形成するなどの機会を提供すると同時に、当局の管理運営能力の育成を目的とする研修ワークショップを開催し、事業効果のさらなる継続性を担保する計画である。